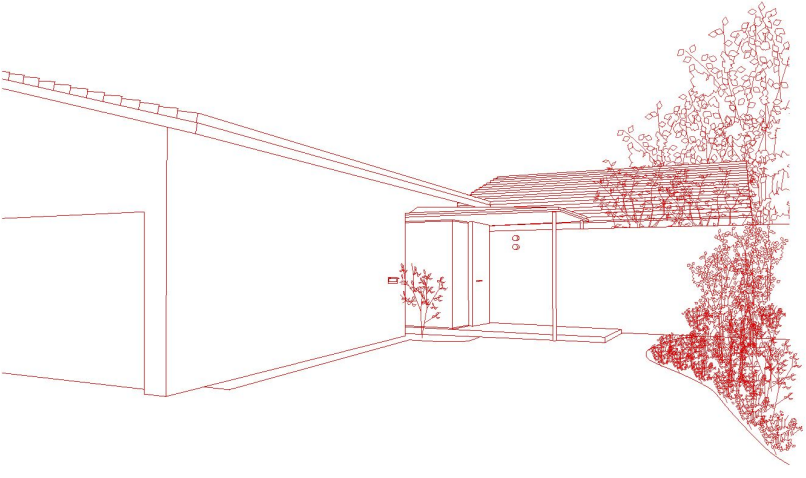
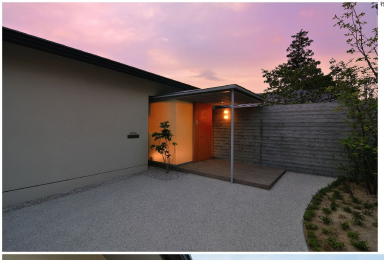
都市の静寂



音羽町の家 | 北庭に、南庭に、そして空へと抜けていく開放性

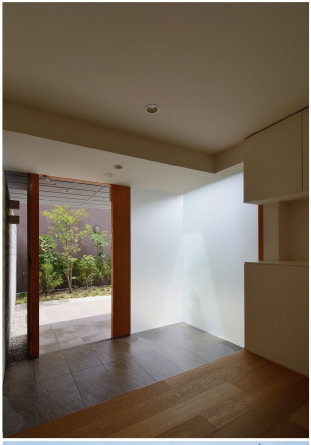
連続とつながるオープンスペース



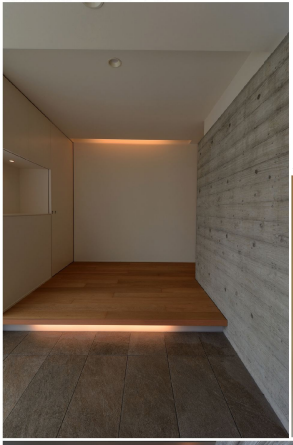
行燈のような明かりが誘れる夕憩動線

庫の前に敷設　打ち放しコンクリートの硬が都市の環境を連動する

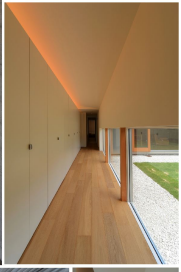
深い軒のあるポーチ



平面のように突き出した玄関、ここからリビングへのアプローチへ向かう



廊下を進むとリビングへ向かう



玄関にスリ込むコンクリート壁

ロフトからリビングを見下ろす

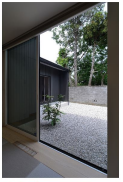
都市の原風景はコンクリート塀によって断ち切る　　静寂さにつつまれた空間

深い軒、格納された断熱グリンド

キッチンから南面をみる　静かな高揚の南庭

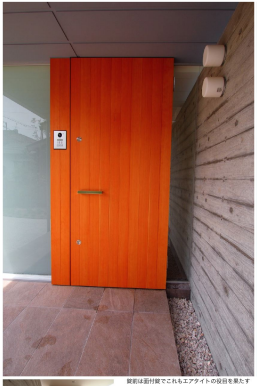
南庭：芝生を張ったたからかな明るい庭

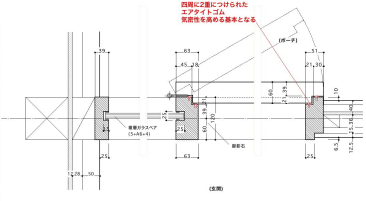
北庭をみる　南庭とは違の異なる風情



ロフトからリビングを望む

和室から南庭をみる　障子で敷居切りができるようになっている





玄関ドア 平面詳細図 1:5

空気層樹脂の空隙（冷暖房熱気）の更の場合は気密性の確保が基本条件となる
気密性を確保する木製建具屋さんが作る玄関ドア

エアコン一台でまかなう冷暖房設備

断熱性能と気密性能と夏の日射遮熱性能が上がってくるとその家を快適に保つための暖房負荷と冷房負荷はかさなものとなる。この宮羽町の家も三つの温熱性能はエアコン一台で冷暖房をまかなうことができる性能としています。

外皮平均熱貫流率=0.57w/㎡k

日射遮熱取得率=2.4

認定低炭素建築物

屋根ウラの小さなスペースを冷暖房機械室として、ここにエアコン1台と各所に送風するDCファン5台とRA（リターンエア）回収口を設けて家全体（45㎡）を冷暖房している。

将来のエアコンや送風機の更新の簡便さやランニングコスト、イニシャルコストの低さもさることながら家全体を穏やかな空調で暖かく涼しく過ごすことの快適性は何にも代えがたいことです。もちろん、窓を開けての風通しも万全に考えているのでその季節の開放感も十分です。一年を通して変化する自然環境とうまく付き合うための仕組みを適切に取り入れることで無理のない外部環境との繋がりを確保できると考えています。

RA（リターンエア）のためのドア上下開口

屋根ウラの空調機械室

ペリメーターゾーンの空調吹出しの床ガラリ

都市の静寂

北庭に、南庭に、
そして空へと抜けていく開放性

立地

この住宅が建っている富山市音羽町、そこは富山市の中心部にほど近い街中ではあるけれど高層ビルが林立する大都市というほどではなく、落ち着いた住宅地に位置する住宅です。

内に向かう住まい意識

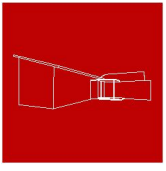
最近の住まいが近隣とのコミュニケーションをあえて失うようになってから、つまりどの家も鍵をかけて常に戸締まりをするようになってからずいぶんと久しくなりました。特に、都市部では例外なくその傾向が見られ、不特定多数に対する不信の眼からプライバシーを守るための家のしつらえは結果として近隣社会に対して閉鎖的にならざるを得ません。結果としてどの家も関心がより内部化に向かい、そして自己化しているのです。

敷地にリードされる幸福

音羽町の家の敷地は奥に深い細長い敷地です。幸いにして敷地の幅が狭くもなくちょうどいい。このちょうどいい幅を上手く使ったアイデアを考えるのが敷地の特徴を引き出すことになりそうでした。
今回の住宅の要素はたった三つです。駐車スペース、外部空間としての庭、そして生活の中心になる家族の日常生活空間です。三つの要素を細長い敷地に割り振ってみると、これがちょうどいい形に□□□□□□。
そうしてできた家が音羽町の家です。それぞれが機能的に繋がりながら上手く配置ができました。いつもは敷地のマイナス要素を補うアイデアで計画を構築することが多いのですが、今回は敷地にリードされて素直に出来上がったプランとなり、めずらしい体験でした。

自己が満たされる静寂さ

今回、都市という言葉を人が活発に行き来するエネルギーに満ちあふれている対象として捉え、その都市のエネルギーから自己を守る場、自己を生かす場としての住まいを都市への反語とした「静寂の場」として捉えてみました。
現代の都市空間の中でプライバシーを守るということは最も望まれる一般解ですが、だからといって、そのプライバシーを守るために閉鎖的で開放感のない内部指向型の住まいとなってしまっては寂しい。プライバシーは守りつつも開放感が溢れて内外の空間構成に心が癒される豊かで落ち着いた豊穣の空間を作りたい。つまり穏やなエネルギーが満ちあふれた都市という環境の中にあっても豊かで自己が満たされる静寂という空間を持つ住宅を作りたいと考えて試行したのがこの「音羽町の家」です。



都市の静寂